

# 千葉工大生に企業期待

# NEWS CIT

2017  
3.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

## ニュースガイド

- 2面 建都院生3人が若手優秀発表賞/林原教授ら3人が優秀講演賞/森田教授に大学体育優秀教員賞/AASSA31人がエリアI・II視察/29年度入試終了
- 3面 産官学フォーラムで4教授が発表/FD講演会開く/PM研究会第4回シンポ/米国電気電子学会研究者ら新習志野キャンパスに
- 4面 デザイン科学科卒展/「リ・デザイン」演習作品展/法典西小にロボット出張
- 5面 定年退職される皆さん
- 6面 CITものづくり作品発表会 今回で終了/天文研がドーム館で星空教室

# OB・OG懇に119社

会社説明会が3月1日に解禁されて本格的にスタートした就職戦線で、千葉工大生には企業のごこれまで以上に熱い視線が注がれている。これに対応して大学も教員と職員が力を合わせた「就職協働」で学生支援に万全の態勢を取っている。今、一番大切なのは「油断するな!」準備をしっかりと、そして動け!だ。

## 就職活動 本格スタート



## 油断禁物 「準備しっかり」



① 津田沼キャンパスで開かれたOB・OG懇談会 ② 学生たちも真剣な表情

2月25日、津田沼キャンパスで昨年12月に続いて2回目のOB・OG懇談会が開かれ、午前の部と午後の部を合わせて119社が参加した。学生側も午前421人、午後424人が参加。会場の2号館大教室と同2階会議室、4号館1階はどこも熱気に包まれていた。

## 就職協働で 大学側支援

大学側の支援態勢も充実に増している。その柱が「就職協働」だ。就職課のスタッフが各学科の教員とミーティングを重ねながら、それぞれの学科に最適な学生支援のためのプログラムを展開するのだ。就職課のスタッフと学生との個別面談でのきめ細かい支援も功を奏している。

企業で活躍している本学の卒業生を招いて、就職希望者に有益なアドバイスをもらうのが趣旨のOB・OG懇談会。この場で最近、実感されるのは「先輩自身が感じている千葉工大に対する企業の期待感」だという。「千葉工大卒は優秀だね」と会社内で言われる先輩が増えている。それが企業の千葉工大生に対する新たな期待につながっている(就職課スタッフ)。

## メテオ観測 臨場体験

### 惑星探査ゾーンにレプリカ

東京スカイツリータワー東キャンパスのエリアII・惑星探査ゾーンに3月2日、新コンテンツが登場した。国際宇宙ステーション(ISS)米国実験棟テストエリア内の観測設備を模したレプリカII写真IIで、現在、ISSの窓越しに流星を観測している本学惑星探査研究センターの超高感度ハイビジョンカメラ「メテオ」が、ISSから地球を見下ろし観測する様子を見られる。宇宙飛行士目線で見ることが出来る。



流星や火球(マインス三等級以上の非常に明るい流星)のほか、地球の夜景や、宇宙から見る雷、オーロラなど、実際に撮影された映像がディスプレイ版で、随時更新される。隣接ブースには、ISSから届いた観測データが記録されたハードドライブを展示。昨年8月末にスペースXドラゴン補給船9号機で地球に持ち帰られ12月末に千葉工大に届いた。

＊

就職委員会・就職課は3月15、16、17日、今年第一回の合同企業説明会を開催。さらに4月、5月にも開催するほか、随時、個別企業説明会を開催。

オープンキャンパス2017

## OPEN CAMPUS

6/18 10:00-18:00	8/6 10:00-18:00
10/29 12:00-18:00	12/10 12:30-18:00

千葉工業大学

# 林原教授・南方教授・入江上席研究員 SI2016で優秀講演賞

▼ ロボカップ・チームのメカトロ教育を紹介

計測自動制御学会の第17回システムインテグレーション部門講演会(SI2016)が昨年12月15〜17日、北海道・札幌コンベンションセンターで開催され、未来ロボティクス学科の林原靖男教授と南方英明教授、未来ロボット技術研究センター(fuRO)の入江清上席研究員の3人が連名で発表した「ロボカップ・サッカーチーム(CIR Brains)におけるメカトロ教育」が優秀講演賞を受賞した。



入江上席研究員



南方教授



林原教授

らに多岐にわたることを紹介。▽短期間に開発するため、外部プロフェッショナルの力を借りながら初期の開発を行ったこと▽プロトの共同開発を通じて学生が多くのことを学びながらも、技術レベルのあまりの高さに初期メンバーに葛藤が生じたこと▽それを次の世代が引き継ぎ、自分の知識と技術に変えていった過程▽さらに、経験則から研究へと、開発で感じた疑問を大学院で理論化していくことで、世界大会でトップレベルを維持できるようになったこと▽学んだ学生が後輩を指導することで、メンバーは現在39人にまで増え、実

践的なメカトロニクス教育のエコシステムができたこと―などを紹介した。林原教授は「本学の教育活動が評価されたということ、素直にうれい事です。今後とも質の高い教育を提供していきたいと思えます」と語った。システムインテグレーション部門講演会は、高機能化、複雑化するシステムの諸問題を解決するため開かれている。領域はロボット、防・減災、医療・福祉、環境、人間機械系、情報・メディア、バイオ、エネルギーなど広範囲にわたっている。

B日程入学試験が2月17、18日の2日間、また、大学入試センター利用入学試験(中期)日本学

日午後1時～午後5時 1万6221人(昨年度より361人増。大

1万6221人(昨年度より254人減)、センター利用入

1万6221人(昨年度より254人減)、センター利用入

1万6221人(昨年度より254人減)、センター利用入



日本学術会議が加盟するAASSA(アジア科学アカデミー・科学協会連合)の31人が3月3日、本学・東京スカイツリータウンキャンパスを視察した。

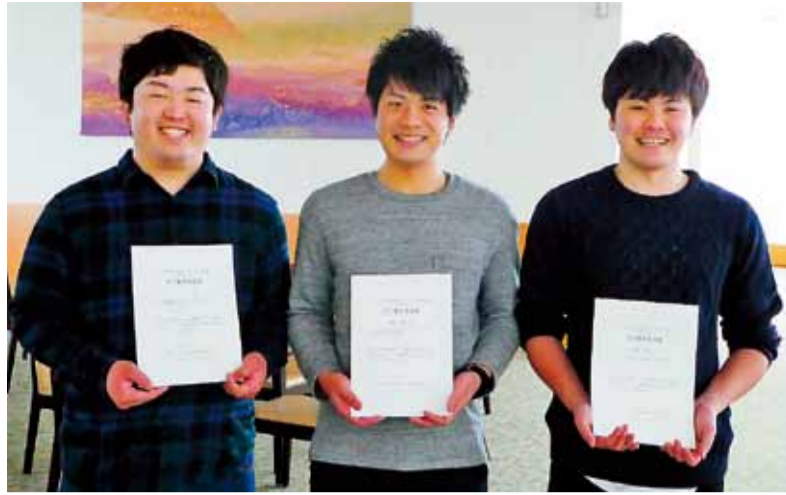
AASSAは、IAP(科学アカデミーの国際ネットワーク)の地域組織の1つとして、特にアジア・南洋州地域の科学教育、科学・工学分野での女性の活用促進や健康、

では、惑星探査研究センター(PERC)の荒井朋子上席研究員が、流星観測「メテオ」プロジェクトについて展示やカメラを説明し、国際宇宙ステーション(ISS)から戻ってきた観測データのハードディスクなどを詳細に説明した。

## 建都院生

# 3人が若手優秀発表賞

▼ 材料施工部門で研究発表



受賞した3人。(左から)和田さん、梅本さん、佐藤さん

日本建築学会の2016年度大会・学術講演会(昨年8月24〜26日、福岡市の福岡大・七隈キャンパス)で開催した材料施工部門で、建築都市環境学専攻修士2年の梅本康裕さん、同1年の佐藤光輝さん、和田渉平さんの3人(いずれも石原沙織研究室)がそれぞれの研究テーマを発表。若手優秀発表賞に決まり11月17日、表彰状が届いた。

若手優秀発表賞は若手による学術講演を顕彰、奨励する目的で設けられており、全審査対象者の1割程度に授賞している。3人の受賞内容は次の通り。

梅本康裕さん 「ウレタン塗膜防水層の立上り部における施工工程種別が施工時間と膜厚に及ぼす影響」

佐藤光輝さん 「「けら」葺き屋根の雨水排水性能に及ぼす風の影響」

和田渉平さん 「視覚的観点からみたウレタン塗膜防水における「ふくれ」

原先生(准教授)をはじめ協力をいただいた皆様に感謝します。社会人になっても日々精進していくつもりです。

「日本伝統的屋根構造の一つ、けら葺きは、板の収縮や摩擦で漏水を起す恐れがある。漏水防止のため、目視で葺き替えの目安を把握できる指標を作ろうと、さまざまな劣化状態のけら葺き試験体を作り、人工的に雨を降らせて雨水排水状況を明らかにした。

「ウレタン塗膜防水層の水層には、ふくれが生じる場合がある。その大きさや数によっては、人は不快と感じ、ときにはクレーンがついて再施工が必要となる。建物使用者の観点から、どの程度のふくれから視覚的な不具合と認識されるかを明らかにした。

## 体育教室の森田教授 大学体育優秀教員賞



森田啓一 先進工学部教授(教育センター)体育教

室II写真)が、昨年12月17日の全国大学体育連合理事会で大学体育優秀教員賞に選ばれ、2月24日、表彰状が届いた。

大学体育連合は、大学の教育方法を研究し、優れた実践をしてい

森田教授は「これまでの取り組みが評価され、光栄に思います。今後も新たなことに取り組んでいきたい」と述べた。

は石原先生をはじめ、建築学会のウレタン塗膜防水層ふくれ不具合認識評

「体育教室」は、受賞を励みに努力していきつくりたいです。皆様のご意見、ご指導を賜りありがとうございます。

身体と健康の科学▽課題探究セミナー」などを開講している。

## エリアI・IIを視察

▼ 国際学術組織のアジア・メンバー

食糧問題をワークショップなどで議論し、成果を公表している。今回はワークショップ後のスタディツアーで訪れた。

では、惑星探査研究センター(PERC)の荒井朋子上席研究員が、流星観測「メテオ」プロジェクトについて展示やカメラを説明し、国際宇宙ステーション(ISS)から戻ってきた観測データのハードディスクなどを詳細に説明した。

# 本学志願者7万6011人 29年度入試 2千余人減

B日程入学試験が2月17、18日の2日間、また、大学入試センター利用入学試験(中期)日本学

日午後1時～午後5時 1万6221人(昨年度より361人増。大

1万6221人(昨年度より254人減)、センター利用入

1万6221人(昨年度より254人減)、センター利用入

1万6221人(昨年度より254人減)、センター利用入

# マ成果 ラズマ 研究 本学4教授が発表

### 産官学連携フォーラム開く

産業界や官界、地域社会などとの交流を深めるため年に一度、本学の研究成果を外部に公開する2016年度の「産官学連携フォーラム」が2月28日、千葉工業大学産官学連携協議会の会員企業や大学院生・学部生などが参加して津田沼キャンパスで開かれた。写真。

今回、研究成果を発表したのは、応用化学科・尾上薫教授▽電気電子工学科・小田昭紀教授▽工学部教育センター・鈴木進教授▽先端材料工学科



ター運営委員長)を加えた5人で昨年度から学内組織「プラズマ・フォーラム」を結成している。プラズマ・フォーラムは文科省の科研費などの外部の競争的資金を獲得

するために、研究者同士の情報交換を密にして、結束を強めるのが狙い。附属研究所の助成を受けている。

5人の構成メンバーはそれぞれが独自の研究分野で優れた成果を上げ、産業界とも技術指導や受託研究などで密接な関係

を構築している。とりわけ基礎から応用まで異なる分野の研究者が横断的に集まっているケースは日本の私学では珍しい。

4人の研究発表は次の通り。

▽尾上教授 「反応場」の工学的体系とプラズマ反応の応用

## 共創の技法を探る

### PM研究会 第4回シンポジウム開く

PM学科の久保裕史教授が中心となって活動している「R&D PM研究会」が2月14日、「第4回R&Dプロジェクトマネジメント(PM)シンポジウム」を東京スカイ

ツリータウンキャンパスで開催。産業界や大学、官公庁などから満席の80人が参加した。

この研究会は2012年6月に発足し、研究開発にPM技法を適用する

ことで、革新的な製品やサービスを産み出す仕組みや組織作りの知識体系構築を目指している。当初は研究開発(R&D)の生産性向上に重点を置いていたが、最近は新しい価値創出のための技法

開発を中心に活動を進めている。

今回のテーマは「共創する R&Dプロジェクトマネジメント」。AIやIoT、ビッグデータなどの先端IT技術をフル活用し、供給者と顧客側が一体となって、インタストリー4.0(第4次産業革命)やサイエティ5.0(日本政府が進めるスマート社会計画)などの経済・社会面における大変革を実現しようという狙いだ。

第1セッションの招待講演は、産総研人工知能研究センター首席研究員

## ICTで授業改善を

### FD講演会で日大准教授が講演

教員と職員が力を合わせて、本学の教育力向上のための活動に取り組んでいるFD(Faculty Development)委員会(委員長・長尾徹デザイン科

学科教授 主催の講演会が2月22日、津田沼キャンパス2号館3階大教室で開かれた。写真。

冒頭のあいさつで小宮一仁学長は「今回が第3

回となるこの講演会で、先生方の授業にすぐに役立てていただける実践的な講演を外部の先生にお願しているが、職員の間にも多数参加していただき、教職協働が着々と進んでいることを実感している」と、会場を埋めた教職員に語りかけた。

講演は日本大危機管理学部の木村敦准教授による「今あるICT(Information and Communication Technology)を活用した授業改善」が最少のICTで最大の効果を。木村准教授は前任校の東京電機大でLMS

「フリーニング・マネジメント・システム」を使って授業改善に取り組み、その成果をまとめた論文が私立大学情報教育協会の平成26年度教育改善研究発表会で奨励賞を受けている。

木村准教授は、グループワーク参加学生に関するデータをLMSのアンケート機能を使って収集し、学修プロセスを可視化するe-Logbookを開発。その内容を表計算ソフトのExcelや無料のクラウドストレージDropboxを使って表やグラフにして検証することで、学生の授業満足度アップや協調学習における欠席数の減少などをもたらすさまざまな授業改善策を実践したことを報告した。

これに対して、会場から「学生の積極的なアンケート回答を促すための動機付けは?」「グループ学習と、積極的に議論に参加する学生と消極的な学生に分かれて、役割が固定してしまうのではないか?」など、さまざまな質問や意見が出て、木村准教授との間で活発な交流が展開された。

長尾教授の話 本学のFD活動は他大学に比べても活発に行われており、教職員の意識も盛り上がってきていると思います。この流れに乗って、大学院FDの充実や教職協働の中でのSD(Staff Development)活動もじっくり考えていきたいと思っています。

## 世界の頭脳 新習志野に

### 米国電気電子学会 日本で活動60周年

全世界に40万人を超える会員を有する世界最大の学会「IEEE」の日本

での活動が60周年を迎えたのを記念するイベントが3月3日、新習志野キャンパスで開催され、世界最先端の頭脳が本学に集結した。写真。

参加者は米国から駆けつけたカレン・パートソン会長をはじめとする米国本部の理事や役員、日本が所属するアジア・太平洋地域の各国にある支部の支部長、日本にある9支部に所属する大学教員や研究者、学生など合わせて約270人。

東京大の菅野卓雄名誉教授、東京工業大の西原明法教授、早稲田大の津田俊隆教授など日本を代表する研究者が次々に壇上であいさつ。会場の1号館大教室は世界の電気

電子学界を担う研究者の熱気に包まれた。

このイベントは、IEEEアジア・太平洋地域運営組織の理事会が3月4日から幕張メッセで開催されたのに合わせて開かれた。会場に新習志野キャンパスが選ばれたのは、情報工学科の佐波孝彦教授(副学長)が昨年、IEEE東京支部の理事を務めたことによる。佐波教授はIEEE通信ソサイエティでのアジア・太平洋地域の理事も務めている。



3日のイベントでは情報通信システム工学科の菅原真司教授、情報工学科の鎌倉浩嗣教授、今井順一教授と4研究室の大学院生合わせて10人が運営に協力した。

イベントの後、新食堂棟3階に会場を移して開かれたレセプションには、小宮一仁学長が来賓として招かれ「学会活動の60周年を記念するイベントが本学で開催されたことは大変名誉あることです。学会の発展を心よりお祝いします」と祝辞を述べ、カレン・パートソン会長らと鏡開きを行った。



校の東京電機大でLMS

「フリーニング・マネジメント・システム」を使って授業改善に取り組み、その成果をまとめた論文が私立大学情報教育協会の平成26年度教育改善研究発表会で奨励賞を受けている。

木村准教授は、グループワーク参加学生に関するデータをLMSのアンケート機能を使って収集し、学修プロセスを可視化するe-Logbookを開発。その内容を表計算ソフトのExcelや無料のクラウドストレージDropboxを使って表やグラフにして検証することで、学生の授業満足度アップや協調学習における欠席数の減少などをもたらすさまざまな授業改善策を実践したことを報告した。

長尾教授の話 本学のFD活動は他大学に比べても活発に行われており、教職員の意識も盛り上がってきていると思います。この流れに乗って、大学院FDの充実や教職協働の中でのSD(Staff Development)活動もじっくり考えていきたいと思っています。

今回のテーマは「共創する R&Dプロジェクトマネジメント」。AIやIoT、ビッグデータなどの先端IT技術をフル活用し、供給者と顧客側が一体となって、インタストリー4.0(第4次産業革命)やサイエティ5.0(日本政府が進めるスマート社会計画)などの経済・社会面における大変革を実現しようという狙いだ。

第1セッションの招待講演は、産総研人工知能研究センター首席研究員

研究会であいさつする久保教授(右)は、研究会のキープメンバー3人による研究成果の発表。

最初は(株)リコージャパンのシニアスペシャリスト、清田守氏による「魔の川・死の谷・ダーウィンの海を越えるR&D PM」。R&Dの現場で試行錯誤を繰り返しながら「使えるPM技法」を確立し、大きな成果を挙げた。

3番目はドアホン大手企業主事の加藤勇夫氏による「変化に強いR&Dプログラムマネジメント」。「顧客の視点」と「業務プロセスの視点」を同時に持つ「マルチプログラム・プラットフォーム」について報告した。

# 多領域に根を張り かたち生み出す

## デザイン科学科 卒展 開く



いろいろな展示方法で来場者の動線を工夫



プラ段を生かした展示会場(2号館3階大教室)



暗室では会場のイメージががらりと変わる



実体験できる作品も多く並んだ

卒業を控えたデザイン科学科生たちが開く恒例「卒業研究展」が2月5、6日の2日間、津田沼校舎2号館・4号館で開かれた。

テーマは「デザインの根」。2016年度、16研究室が、デザインという幅広い領域に張り巡らせた根が、さまざまなかたちとなって表れた。

夢を現実の形に、と生かす。卒業生や市民たちの姿が多く見られた。2日目・月曜には教職員らが訪れ、学生たちの集大成を丁寧に見て回った。

卒業展は、コンセプトに沿って広報班と展示班に分かれ、運営に向けて作業してきた。広報班は「デザインの根」のコンセプトが採用された小田彩花さん、菊池遥人さん(ともに赤澤智津子研)を中心に、パンフレットなどのメインビジュアルを制作。中村朋子さん

(長尾徹研)がポスターと案内ハガキを担当した。展示班は青嶋広輔さん(倉斗綾子研)と小池剛志さん(田邊里奈研)が中心となり、作品情報をもとに展示場所の割り振りや配置を計画、学年全員の作品を決められたスペースに収められた。パネル展示はプラスチック段ボール(プラ段)をパ

ーテーションに利用。暗室も整備するなど準備に追われた。会場は、2号館、4号館と建物を超えてたにもかかわらず来場者の動線を意識した配置がなされ、メリハリが利いた展示で好評だった。

終了後、小田さんは「4年間得た技術や知識、身につけた感覚・感性を表現したさまざまな作品が展示されました。制作し、展示し、評価していただくところまでが制作活動だと思っています。先生方をはじめ大勢の人々に見ていただいていたことを交わす、刺激ある展示会になったと思います」と振り返った。

デザイン科学科4年担任の倉斗准教授は「卒業研究は自分だけの成果、と考える学生も多いと思うが、最後にこの展示会の企画、準備、実施を通して自分たちの頭の中にあるイベントのイメージを、全員で協力してリアルな世界へアウトプットすることの大変さを知ってくれたのであれば、この学科で学ぶ大切なことの1つを習得できたといえるのではないかと話している。

## リ・デザインに挑む

### 紙パッケージでデザ科演習 作品展

デザイン科学科1年生の2セメスターの必修科目「創造工学基礎演習2」で制作した課題作品を中心とする展示会が2月15日、津田沼キャンパス7号館で開かれた。

授業は八馬智准教授と橋本都子教授が担当し、課題は「ペーパー・パッケージのリ・デザイン」。

「コンビニなど身近にある商品の紙製パッケージのデザインを、さまざまな観点から分析。『つくろ人』『売る人』『買う人』の関係を意識して、商品そのものには手を加えずに「コンセプト」と「ターゲット」を変え、新たなパッケージを、新たなパッケージを、実物に近づけるようにすることで、購買者が受ける価値や魅力の再構築を目指すプログラムだ。

有志の1年生27人と2年生14人。お菓子などの食品や日用雑貨、文房具などの商品を素材として、自分でコンセプトを再構築し、顧客層を具体的に想定して、自分なりの新たな工夫をこらしたパッケージを作り上げた。

この授業の特徴は、5〜6人のグループワークによるディスカッションやプレゼンテーションを繰り返して行うこと。これによって学生たちが多様な観点を獲得しながら、知識を共有し、思考を深めて、成果である作品の質を高めることにつながるという。

八馬准教授は「デザインは自分の思いを実現するためにデザインするのではなく、他者が欲しいと思うモノをデザインすることが目的なのだ」ということを、1年生諸君がこの授業を通じて理解

してもらえらると思う」と話している。この作品展には、長尾徹教授が担当する「デザイン基礎2」の受講生有志7人も「見て美しく、持って心地よいと思う形状」という課題で制作した作品を出展した。

また、28年度のCIITものづくり公募型に参加している「作品展示会」の会場設営やポスターづくりなどの運営を担当した。

体育館中央に設置されたロボットフィールドには、学生たち自慢の二足歩行ロボットが5台登場

また、ロボットバトルもお披露目。学生たちの真剣勝負に、応援の声が

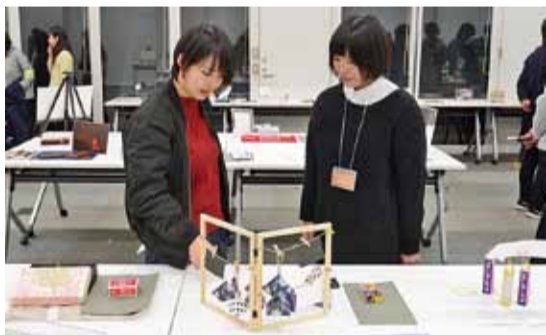
また、ロボットバトルもお披露目。学生たちの真剣勝負に、応援の声が



先生からも貴重なアドバイスを受ける



フレキシブルワークスペースに並んだ作品の数々



作品のコンセプトを説明する学生



総工研の部員たちを囲む法典西小5年生



ロボットの仕組みに興味津々

## 法典西小にロボ出張

### 総工研が操縦指導、先川原室長が講義

船橋市立法典西小学校で3月7日、本学文化会サークル・総合工学研究会(石川直生部長)と未来ロボティクス学科2年の学生たちによる「ロボット操縦体験」と、未来ロボット技術研究センター(fuRo)の先川原正浩室長による「ロボット講義」が開かれ、5年生児童約120人が参加した。

続いて先川原fuRo室長が講演。未来のロボット社会がどうなるのか、役に立つ最新ロボット事情を紹介した。ロボット製作途中の失敗動画を公開すると児童、教員たちから笑いがおこり、終始にぎやかな出張講座となった。

その後、先川原室長と学生たちは分かれて各教室に移動し、児童たちと給食をとった。その間も質問が飛び交い、楽しい時を過ごした。

# 定年退職される皆さん

3月に定年を迎えられる教職員の皆さんを紹介します。いろいろな思い出や学生たちへのエールなど、温かい言葉を残してくださいました。(敬称略)

## 教員 (8人)



土屋 正則 (教育センター・准教授)

何よりも健康を  
長い間有難うございました。

理論と実践に基づいた教育研究に取り組む姿勢は学生や若手教員に評判。先生の探究心は退職後も続くでしょう。



依田 十久子 (教育センター・教授)

自分らしく  
ありがとうございました。

面倒見がよく、全ての学生の名前と顔を覚えて対話。今でも多くの卒業生と親交が厚いのは、先生の人柄ゆえ。



小泉 俊雄 (建築都市環境学科・教授)

43年間お世話になりました。皆様のご活躍を願っております。  
—信用ある人間となれ—

5回に及ぶブータン伝統住居の測量で教員・学生にチームの素晴らしさを教授。温かな笑顔の裏には熱い情熱が。



江尻 英治 (機械サイエンス学科・教授)

教育・研究を十分に楽しませていただきました。今後の大学の発展、卒業生のご活躍を心から願っています。

常にものづくりの実践を通して教育・研究指導を実施。先生の姿を見て多くの学生が夢と希望を抱いたという。

## 職員 (4人)



三須 敏行 (総務部付事務職員)

継続は力なり

物静かで温厚。優しげなたれ目もカメラを構えるときリリ。千葉工大の歴史をいろいろな角度から残してくれた。



宮井喜久江 (学務課事務職員)

ありがとうございました。

物静かなたたずまいで先生との橋渡しを。トレードマークのヒールで万里の長城に臨んだ武勇伝は伝説に。



大田 勉 (経営情報科学科・教授)

学内外の多くの人の助けがありました。ありがとうございます!!

明るく誰にも平等に接する先生。学生と対話による授業が印象的。何事も恐れずチャレンジする姿を、皆が尊敬。



篠田 裕 (建築都市環境学科・助教)

心身の健康

研究室のモットーは「不言実行、礼儀、規律」。先生の言動には一切ブレがない。几帳面なので研究室も常に奇麗。



酒井 哲朗 (新習志野学生課警備主任)

感謝

皆様のご指導・ご支援・ご協力を得、有意義な勤務が出来ました。ありがとうございました。

学生たちや教職員を、いつも温かい笑顔で見守り続けてくれたラガーマン。フットワークのよさはピカイチ。



関上 悦子 (学生課課長補佐)

健康第一!

いつもそばにいてくれたお母さん。おおらかな優しさや愛で、学生たちはもとより、みんなを迎え入れてくれた。



五百井 俊宏 (プロジェクトマネジメント学科教授)

素晴らしい指導教授と学生に巡り会えました。心より感謝申し上げます。

常に冷静に対処する紳士。学生の意見を尊重、的確な指導は若い教員らの良い手本に。PM導入時代の立役者!



荻林 成章 (経営情報科学科・教授)

20年間ありがとうございました。学生のみならず、知識だけでなく、知識の学び方、クリエイティブの仕方を学んでください。

研究への姿勢は厳しく熱く探求心旺盛。社会システム科学部設立の際、中心的役割を果たし多大な貢献をした。

荻林教授



篠田助教



江尻教授



五百井教授



大田教授



小泉教授



依田教授



## 思い出スナップ

# 最優秀賞「特殊3Dプリンター」

## CIITものづくり作品発表会 今回で終了

平成28年度「CIITものづくり作品発表会」が3月1日、津田沼キャンパス2号館大教室で開催され、参加30作品の中から未来ロボティクス学科のグループの「特殊3Dプリンター」の製作が最優秀賞に、5作品が優秀賞に選ばれた。以下の別項に発表会では、まず小宮一仁学長があいさつで昨年12月に英国のハモンド財務相が東京スカイツリータウンキャンパスに展示されているfuroの最先端ロボット技術を視察に訪れたことを紹介し、「英国はかつて高性能の自動車を作る独自の技術を持っていたが、現在は外国の技術で自動車を作っている。しかしEUからの離脱を決めて、改めて工業力を伸ばす必要に迫られている。同様に資源に乏しい日本を支えるものは工業力であり、皆さんのものづくりへの取り組みは、日本の将来を担う一歩です」と語りかけた。



受賞した学生たち



発表会の会場



作品の説明を受ける

この後、参加者と見学者の投票で最優秀賞と優秀賞を選び、最優秀賞は小宮学長から、優秀賞は「CIITものづくり・ウィンググループ」代表の石塚明夫デザイン科学科教授からそれぞれの代表に賞状が手渡された。会場には千葉工大産官学連携協議会の会員企業から「赤星工業▽アシザワ・ファイナテック▽キーズファクトリー▽しのはらプレスサービス▽タツオカ▽フジキンの6社もブースを設けて自社の技術をアピールしていた。

文化会天文研究部（館山祥之部長・金融・経営リスク科学科2年）が主催し、プラネタリウムや天体観測を楽しむ「星空教室」（習志野市教育委員会共催）が3月4日の土曜日午後3時から、習志野市総合教育センタードーム館（旧プラネタリウム館）東習志野3丁目で開催された。

習志野市内の小学生と保護者約120人が参加。部員紹介後、前半は星座にまつわる歴史を取り上げ、みんなで星座早見盤を作成した。



① 星座早見盤を作る  
② 天体望遠鏡をのぞく

後半は参加者希望のプラネタリウム上映。季節の星座が大天井に映し出され、夜空の美しい星々も忘れた様子。その後、

閉会后、石塚教授から「平成21年度に始まったCIITものづくりは、8回目の今回をもっていったん終わりにする」と明らかにされた。石塚教授はさらに「製作途中の作品は皆さんの手で完成させてほしい。また、皆さんが千葉工大で学ぶ専門分野の基礎づくりがで

きたと考えて、この経験を生かしてほしい」と呼びかけた。

▽日本古来の伝統技法を用いた金属工芸（瀧口瑛介・先端材料工学科、小澤俊平・先端材料工学科准教授）▽作品展示会のトータルデザイン（公募型、鍛冶本碧・デザイン科学科、八馬智・デザイン科学科准教授、田邊里奈・知能メディア工学科助教、若松弘樹・津田沼学生課）▽ハイブリッドロケットの製作と打ち上げ実験（公募型、高砂民明・機械サイエンス学科、和田豊・機械電子創成工学科准教授、海老根克磨・入試広報課）

▽電気電子情報工学科3年と小山大輔さん（同）を中心に企画・立案された規模が進展。リハールを経て実施された。

会場の教育センタードーム館は平成22年にプラネタリウムを休止。投影機材は利用できず、プロジェクターを使うなどして工夫を凝らした。館山部長は「慣れない場所での大規模イベントで、反省点は多々ありますが、天体望遠鏡をのぞく皆さんの笑顔を見て安心しました。何より部員一同が楽しんで終了できました」と話した。

今後定期的な星空観測教室開催を目標に、内容の充実や部員育成に力を入れていくという。

同窓会は新卒生を迎え、8万4200名になりました。1期生を輩出した昭和22年から今年9月で70年。大学も5月には創立75周年を迎える、記念すべき節目の年で、平成元年以降の同窓生数も5万人を超えて、平成卒の活躍が盛んに聞こえてくるようになります。

置および僧帽弁置換、冠動脈バイパスの緊急手術を行っていたのだが、倒れた直後から4週間の記憶がまったくない。

大病の要因については「健康に対する過信と生活習慣に対する誤解」という看護師さん表現につきる。さらに、早期退院を切望する私を以下の言葉で諭されたのも忘れられない。「お医者さんはあなたの病気と向き合っているの。私たちはあなた

の人生と向き合っているの。まだまだ退院させないでほしいわ。」

今回の病気で私には新たな誕生日ができた。意識が復活した12月19日実践しており、退院後の朝食は毎日自分で用意している。第二の人生を楽しむことで、周囲の皆さんに感謝と御礼の気持ちを表したい。

応用化学科 尾上 薫

最後にご父母の皆様へ、4月から新社会人として、皆様が進める会社に卒業生が入られた際は企業人として活躍できる人財となれますよう、お力添えを、お願い致します。

同窓会事務局 磯海 善隆

## 受賞作品

▽最優秀賞 特殊3Dプリンターの製作（学生責任者 井口拳太・未来ロボティクス学科、アドバイザー 林原靖男・同教授）

▽優秀賞 潜水ロボット（中井工貴・電気電子情報工学科、東山幸司・教育センター准教授）▽吸着機構を搭載した壁走りロボットの製作（石川英丈・未来ロボティクス学科、米田完・同教授）

## 星空教室に親子120人

### 天文研が習志野ドーム館で開催

戸外に出て望遠鏡で天体観測。金星、火星などの惑星を見た子供たちは大はしゃぎ。保護者たちも一緒に望遠鏡をのぞいた。

参加人数がこれまでで最多の約120人と多く、1年生部員の中には、コミュニケーションをとるのに苦労した、と反省の声があった。今回教室は昨年10月、前部長の土佐和也さん

場所での大規模イベントで、反省点は多々ありますが、天体望遠鏡をのぞく皆さんの笑顔を見て安心しました。何より部員一同が楽しんで終了できました」と話した。

今後定期的な星空観測教室開催を目標に、内容の充実や部員育成に力を入れていくという。

## 同窓会



記録を紐解くと、創立時には、大正生まれの学生へ、明治生まれの教授が教えていたとの事。平成生まれの師弟誕生が待ち望まれます。いずれにしても母校でそれぞれの時代を過ごした思いを、次の世代へ語り継いでいきたいものです。

同窓会事務局 磯海 善隆

## 四季雑感



心不全で倒れ、奇跡的に復職して2年が経過した。2014年11月25日の午前に講義を行い、普段と変わらぬ研究室生活を過ごしていた私にとって突然の呼吸困難は青天の霹靂の出来事であった。二ヶ所の病院で冠動脈の閉塞に対する緊急措置

同窓会事務局 磯海 善隆

## 編集だより



今年、我が家の長男が中学校を卒業し、一足早く、プライベートで「卒業式」に出席した。

入試広報課 大橋 慶子